

News Release

プルデンシャル生命保険株式会社

〒100-0014 東京都千代田区永田町2-13-10 プルデンシャルタワー
https://www.prudential.co.jp/



Prudential

2024年11月22日

プルデンシャル生命保険株式会社

2024年度第2四半期（上半期）業績報告

プルデンシャル生命保険株式会社（代表取締役社長 間原 寛）の2024年度第2四半期（上半期）（2024年4月1日～9月30日）の業績についてお知らせします。詳細につきましては次ページ以降をご覧ください。

■2024年度第2四半期（上半期）業績ハイライト

<前年度末比>

保有契約高	44兆221億円	1.9%減
保有契約年換算保険料	8,473億円	3.5%減
総資産	6兆2,814億円	0.1%減
ソルベンシー・マージン比率	773.8%	24.5ポイント増

<前年同期比>

新契約高	2兆2,418億円	59.2%増
新契約年換算保険料	370億円	13.8%増
保険料等収入	7,877億円	10.1%増
基礎利益	208億円	4.8%減
経常利益	152億円	44.2%減
中間純利益	92億円	51.5%減

※新契約、保有契約は、個人保険と個人年金保険の合計です。

※年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。

添付資料

2024年度第2四半期（上半期）報告

2024年度第2四半期（上半期）報告

※資料中、「第2四半期（上半期）」は「4月1日～9月30日」を表しております。

<目次>

1. 主要業績	P. 1
2. 一般勘定資産の運用状況	P. 3
3. 資産運用の実績（一般勘定）	P. 4
4. 中間貸借対照表	P. 7
5. 中間損益計算書	P. 8
6. 中間株主資本等変動計算書	P. 9
7. 経常利益等の明細（基礎利益）	P. 16
8. 保険業法に基づく債権の状況	P. 17
9. ソルベンシー・マージン比率	P. 18
10. 特別勘定の状況	P. 19
11. 保険会社及びその子会社等の状況	P. 20

1. 主要業績

(1) 保有契約高及び新契約高

・保有契約高

(単位：千件、億円、%)

区分	2023年度末		2024年度 第2四半期（上半期）末			
	件数	金額	件数	金額		前年度 末比
				前年度 末比		
個人保険	4,457	443,387	4,468	100.3	433,312	97.7
個人年金保険	97	5,314	112	115.4	6,909	130.0
団体保険	-	0	-	-	0	100.0
団体年金保険	-	1	-	-	1	85.2

(注) 1. 個人年金保険については、年金支払開始前契約の年金支払開始時における年金原資と年金支払開始後契約の責任準備金を合計したものです。

2. 団体年金保険については、責任準備金の金額です。

・新契約高

(単位：千件、億円、%)

区分	2023年度 第2四半期（上半期）				2024年度 第2四半期（上半期）					
	件数	金額			件数	金額				
		新契約	転換による 純増加			前年 同期比	前年 同期比	新契約	転換による 純増加	
個人保険	144	14,055	14,055	-	164	113.6	20,782	147.9	20,782	-
個人年金保険	0	26	26	-	15	5,422.0	1,636	6,069.3	1,636	-
団体保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
団体年金保険	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 当社は転換制度を導入しておりません。件数には、転換後契約の数値は含まれておりません。

(2) 年換算保険料

・保有契約

(単位：百万円、%)

区分	2023年度末	2024年度	
		第2四半期（上半期）末	前年度末比
個人保険	846,421	811,378	95.9
個人年金保険	31,892	35,981	112.8
合計	878,314	847,360	96.5
うち医療保障・生前給付保障等	77,649	76,946	99.1

・新契約

(単位：百万円、%)

区分	2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度	
		第2四半期（上半期）	前年同期比
個人保険	32,484	33,144	102.0
個人年金保険	73	3,916	5,348.0
合計	32,557	37,060	113.8
うち医療保障・生前給付保障等	2,120	2,131	100.5

- (注) 1. 年換算保険料とは、1回あたりの保険料について保険料の支払方法に応じた係数を乗じ、1年あたりの保険料に換算した金額です（一時払契約等は、保険料を保険期間で除した金額）。
2. 「医療保障・生前給付保障等」については、医療保障給付（入院給付、手術給付等）、生前給付保障給付（特定疾病給付、介護給付等）、保険料払込免除給付（障害を事由とするものは除く。特定疾病罹患、介護等を事由とするものを含む）等に該当する部分の年換算保険料を計上しています。

2. 一般勘定資産の運用状況

(1) 運用環境

2024年度上半期におけるわが国経済は、物価高による下押し圧力が継続したものの、賃金の改善などが個人消費を支えました。また、好調な企業業績や人手不足を背景に企業による設備投資に底堅さが見られるなど、内需を中心に景気は緩やかに持ち直す動きとなりました。

国内債券市場は、日銀による追加的な金融政策の修正観測の高まりを背景に、10年国債金利は1.0%を上回る水準まで上昇しました。しかし、7月末に日銀が追加利上げを決定して以降は、米国で景気後退懸念が台頭し、国内株式の歴史的な急落を受けて質への逃避から債券が買われたことで金利は急低下しました。その後は、政治への不透明感の高まりなどを背景に、方向感の出づらいつ展開となり、10年国債金利は前年度末比0.130%高い0.855%で取引を終えました。

米国債券市場は、景気の底堅さを示す経済指標の公表が相次ぎ、利下げ時期の後ずれ懸念が高まったことで、米国10年国債金利は上昇する場面がありました。しかし、その後は労働市場の減速や物価指標の鈍化傾向を背景に、早期利下げ観測が高まり、金利は低下基調で推移しました。9月に米連邦準備制度理事会が0.5%の大幅利下げを実施して以降は、金利は下げ止まり、米国10年国債金利は前年度末比0.419%低い3.782%で取引を終えました。

国内株式市場（日経平均株価）は、当初は米国での利下げ時期の後ずれ懸念などから軟調な展開が続いたものの、米国株式の上昇や円安の進行を受け、7月には一時過去最高値を更新しました。しかし、米景気悪化懸念が高まり、為替が大きく円高方向に振れたことで、株価は歴史的な大幅下落となりました。その後、株価は持ち直す動きを見せましたが、日経平均株価は、前年度末比2,449.89円下落し、37,919.55円で取引を終えました。

外国為替市場は、米国での利下げ観測の後退などを背景に円売りドル買い基調が続き、1ドル160円台まで円安ドル高が進行しました。しかし、米国での利下げ観測が強まったことや日本の通貨当局による円買い介入をきっかけに円高ドル安基調へ転じました。その後も、米国での利下げ期待の高まりから、米国金利の低下が続いたことで、円高基調が継続し、為替レートは前年度末比8.68円円高水準の1ドル142.73円で取引を終えました。

(2) 当社の運用方針

一般勘定の資産運用では、負債側のキャッシュ・フロー及び商品特性を分析し、それに合わせたALM（資産・負債の総合管理）を行っています。具体的には、中長期的に安定した利息収入の獲得や金利リスク軽減を目的に、国債や信用度の高い円建債券を中心とした運用を行っています。また、リスク分散を図りつつ、為替ヘッジを付した外貨建公社債への投資にも取り組み、収益の向上を図っています。なお、投資先の炭素排出量の計測やサステナブル投資の拡大等のESGの諸要因を投資の意思決定に反映させる取り組みも行っていきます。

(3) 運用実績の概況

2024年度上半期末の一般勘定資産は、5兆7,453億円となり、前年度末に比べ315億円の減少（0.5%減）となりました。2024年度上半期は主に国内公社債に配分しました。この結果、2024年度上半期末の主な資産構成は、国内公社債67.7%、国内株式0.6%、外国証券15.9%、その他の証券0.4%、貸付金9.8%、不動産0.1%となっています。

2024年度上半期の利息及び配当金等収入は526億円となり、有価証券売却益などを加えた資産運用収益全体では856億円となりました。一方、資産運用費用は466億円となり、この結果、資産運用関係収支は389億円となりました。

3. 資産運用の実績（一般勘定）

(1) 資産の構成

（単位：百万円、％）

区分	2023年度末		2024年度 第2四半期（上半期）末	
	金額	占率	金額	占率
現預金・コールローン	93,885	1.6	154,441	2.7
買現先勘定	-	-	-	-
債券貸借取引支払保証金	-	-	-	-
買入金銭債権	1,755	0.0	1,487	0.0
商品有価証券	-	-	-	-
金銭の信託	-	-	-	-
有価証券	4,867,114	84.3	4,861,013	84.6
公社債	3,856,256	66.8	3,887,036	67.7
株式	54,336	0.9	32,524	0.6
外国証券	930,546	16.1	916,037	15.9
公社債	844,096	14.6	833,295	14.5
株式等	86,450	1.5	82,742	1.4
その他の証券	25,974	0.4	25,414	0.4
貸付金	607,746	10.5	565,134	9.8
不動産	4,690	0.1	4,713	0.1
繰延税金資産	48,528	0.8	53,341	0.9
その他	155,776	2.7	107,679	1.9
貸倒引当金	△2,604	△0.0	△2,489	△0.0
合計	5,776,893	100.0	5,745,320	100.0
うち外貨建資産	152,379	2.6	152,273	2.7

（注）「不動産」については土地・建物を合計した金額を計上しています。

(2) 資産の増減

（単位：百万円）

区分	2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度 第2四半期（上半期）
	現預金・コールローン	△62,259
買現先勘定	-	-
債券貸借取引支払保証金	-	-
買入金銭債権	△282	△267
商品有価証券	-	-
金銭の信託	-	-
有価証券	127,007	△6,101
公社債	36,331	30,779
株式	9,241	△21,811
外国証券	80,675	△14,508
公社債	68,574	△10,800
株式等	12,100	△3,707
その他の証券	759	△560
貸付金	42,753	△42,611
不動産	138	23
繰延税金資産	1,524	4,812
その他	1,263	△48,097
貸倒引当金	△2,084	115
合計	108,061	△31,572
うち外貨建資産	11,944	△106

（注）「不動産」については土地・建物を合計した金額を計上しています。

(3) 資産運用収益

(単位：百万円)

区分	2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度 第2四半期（上半期）
利息及び配当金等収入	52,853	52,645
預貯金利息	46	100
有価証券利息・配当金	43,428	42,469
貸付金利息	9,351	10,055
不動産賃貸料	-	-
その他利息配当金	26	20
売買目的有価証券運用益	-	-
有価証券売却益	3,494	14,115
国債等債券売却益	-	0
株式等売却益	3,015	13,631
外国証券売却益	479	483
その他	-	-
有価証券償還益	1,210	145
金融派生商品収益	-	18,510
為替差益	78,524	-
貸倒引当金戻入額	-	104
その他運用収益	54	95
合計	136,138	85,617

(4) 資産運用費用

(単位：百万円)

区分	2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度 第2四半期（上半期）
支払利息	3	4
売買目的有価証券運用損	-	-
有価証券売却損	14	10,642
国債等債券売却損	3	7,412
株式等売却損	-	49
外国証券売却損	11	3,179
その他	-	-
有価証券評価損	3	335
国債等債券評価損	-	-
株式等評価損	-	-
外国証券評価損	3	335
その他	-	-
有価証券償還損	24	141
金融派生商品費用	70,213	-
為替差損	-	35,245
貸倒引当金繰入額	2,084	-
貸付金償却	-	-
賃貸用不動産等減価償却費	-	-
その他運用費用	239	301
合計	72,583	46,671

(5) 売買目的有価証券の評価損益

(単位：百万円)

区分	2023年度末		2024年度第2四半期（上半期）末	
	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益	貸借対照表 計上額	当期の損益に 含まれた評価損益
売買目的有価証券	-	-	-	-

(6) 有価証券の時価情報（売買目的有価証券以外）

(単位：百万円)

区分	2023年度末					2024年度第2四半期（上半期）末				
	帳簿価額	時価	差損益			帳簿価額	時価	差損益		
			うち差益	うち差損	うち差益			うち差損		
満期保有目的の債券	129,721	159,788	30,066	30,066	△0	129,106	156,735	27,629	27,629	-
責任準備金対応債券	3,928,569	3,751,484	△177,084	215,519	△392,603	3,932,487	3,587,268	△345,219	166,307	△511,526
子会社・関連会社株式	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他有価証券	714,542	764,594	50,052	76,077	△26,025	700,932	754,504	53,571	68,337	△14,766
公社債	103,980	102,177	△1,802	120	△1,922	128,076	125,890	△2,186	261	△2,447
株式	24,750	54,031	29,281	29,321	△40	15,449	32,219	16,770	16,838	△68
外国証券	574,529	591,380	16,850	40,894	△24,043	546,129	579,854	33,724	45,791	△12,066
公社債	530,917	541,639	10,722	34,274	△23,552	507,550	534,334	26,784	38,458	△11,674
株式等	43,612	49,741	6,128	6,619	△491	38,578	45,519	6,940	7,332	△392
その他の証券	11,282	17,004	5,722	5,741	△19	11,276	16,540	5,263	5,446	△182
買入金銭債権	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
譲渡性預金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	4,772,833	4,675,867	△96,965	321,663	△418,629	4,762,526	4,498,508	△264,018	262,274	△526,292
公社債	3,858,059	3,677,936	△180,122	206,304	△386,427	3,889,222	3,541,371	△347,851	158,404	△506,255
株式	24,750	54,031	29,281	29,321	△40	15,449	32,219	16,770	16,838	△68
外国証券	876,986	925,074	48,088	80,230	△32,142	845,089	906,840	61,750	81,536	△19,785
公社債	833,373	875,333	41,959	73,611	△31,651	806,510	861,321	54,810	74,203	△19,393
株式等	43,612	49,741	6,128	6,619	△491	38,578	45,519	6,940	7,332	△392
その他の証券	11,282	17,004	5,722	5,741	△19	11,276	16,540	5,263	5,446	△182
買入金銭債権	1,755	1,819	64	64	-	1,487	1,536	48	48	-
譲渡性預金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(注) 1. 本表には、金融商品取引法上の有価証券として取り扱うことが適当と認められるもの等を含んでいます。
2. 市場価格のない株式等及び組合等は本表から除いています。

・市場価格のない株式等及び組合等の帳簿価額は以下のとおりです。

(単位：百万円)

区分	2023年度末	2024年度 第2四半期（上半期）末	
		帳簿価額	時価
子会社・関連会社株式	9,270	9,174	
その他有価証券	32,962	35,246	
国内株式	5	5	
外国株式	-	-	
その他	32,957	35,241	
合計	42,232	44,420	

(7) 金銭の信託の時価情報

該当ございません。

4. 中間貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	2023年度末 要約貸借対照表 (2024年3月31日現在)	2024年度 中間会計期間末 (2024年9月30日現在)
		金額	金額
(資産の部)			
現金及び預貯金		97,107	158,526
買入金銭債権		1,755	1,487
有価証券		5,360,862	5,371,535
(うち国債)		(3,624,856)	(3,642,114)
(うち地方債)		(26,907)	(26,660)
(うち社債)		(294,324)	(306,832)
(うち株式)		(54,336)	(32,524)
(うち外国証券)		(1,118,868)	(1,133,905)
貸付金		607,746	565,134
保険約款貸付		299,421	290,169
一般貸付		308,325	274,965
有形固定資産		5,991	5,855
無形固定資産		17,257	16,966
再保険貸		60,879	30,877
その他資産		92,884	80,192
その他の資産		92,884	80,192
繰延税金資産		48,528	53,341
貸倒引当金		△2,604	△2,489
資産の部合計		6,290,409	6,281,427
(負債の部)			
保険契約準備金		5,604,400	5,671,516
支払備金		22,932	22,954
責任準備金		5,581,171	5,648,279
契約者配当準備金		296	283
再保険借		73,333	50,121
その他負債		262,720	223,998
未払法人税等		7,290	4,489
リース債務		13	1
その他の負債		255,416	219,507
退職給付引当金		46,913	47,057
役員退職慰労引当金		1,553	1,354
特別法上の準備金		67,499	68,195
価格変動準備金		67,499	68,195
負債の部合計		6,056,421	6,062,245
(純資産の部)			
資本金		29,000	29,000
資本剰余金		20,439	20,439
資本準備金		20,439	20,439
利益剰余金		142,171	135,400
利益準備金		8,560	8,560
その他利益剰余金		133,611	126,839
繰越利益剰余金		133,611	126,839
株主資本合計		191,611	184,839
その他有価証券評価差額金		39,242	40,397
繰延ヘッジ損益		3,135	△6,055
評価・換算差額等合計		42,377	34,342
純資産の部合計		233,988	219,182
負債及び純資産の部合計		6,290,409	6,281,427

5. 中間損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	2023年度 中間会計期間 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	2024年度 中間会計期間 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)
		金額	金額
経常収益		895,082	875,033
保険料等収入		715,180	787,738
（うち保険料）		(542,013)	(545,004)
資産運用収益		177,688	85,617
（うち利息及び配当金等収入）		(52,853)	(52,645)
（うち有価証券売却益）		(3,494)	(14,115)
（うち金融派生商品収益）		(-)	(18,510)
（うち特別勘定資産運用益）		(41,549)	(-)
その他経常収益		2,213	1,677
経常費用		867,697	859,761
保険金等支払金		594,278	666,688
（うち保険金）		(46,998)	(53,339)
（うち年金）		(16,526)	(18,060)
（うち給付金）		(7,844)	(8,470)
（うち解約返戻金）		(172,805)	(252,506)
（うちその他返戻金）		(4,455)	(6,994)
責任準備金等繰入額		125,943	67,129
支払備金繰入額		239	21
責任準備金繰入額		125,704	67,108
契約者配当金積立利息繰入額		0	0
資産運用費用		72,583	48,069
（うち支払利息）		(3)	(4)
（うち有価証券売却損）		(14)	(10,642)
（うち有価証券評価損）		(3)	(335)
（うち金融派生商品費用）		(70,213)	(-)
（うち特別勘定資産運用損）		(-)	(1,398)
事業費		62,137	64,772
その他経常費用		12,753	13,100
経常利益		27,384	15,271
特別利益		-	0
特別損失		859	2,326
税引前中間純利益		26,525	12,945
法人税及び住民税		6,776	5,412
法人税等調整額		729	△1,695
法人税等合計		7,505	3,716
中間純利益		19,020	9,228

6. 中間株主資本等変動計算書

2023年度中間会計期間

(2023年4月1日から2023年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		
		資本 準備金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	29,000	20,439	20,439	8,560	116,395	124,956	174,395
当中間期変動額							
剰余金の配当	-	-	-	-	△14,800	△14,800	△14,800
中間純利益	-	-	-	-	19,020	19,020	19,020
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	-	4,220	4,220	4,220
当中間期末残高	29,000	20,439	20,439	8,560	120,616	129,176	178,616

(単位：百万円)

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	29,541	6,374	35,916	210,312
当中間期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	△14,800
中間純利益	-	-	-	19,020
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	△9,259	2,427	△6,832	△6,832
当中間期変動額合計	△9,259	2,427	△6,832	△2,611
当中間期末残高	20,281	8,802	29,084	207,701

2024年度中間会計期間

(2024年4月1日から2024年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本						株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益 準備金	利益剰余金		
		資本 準備金	資本剰余金 合計		その他利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	29,000	20,439	20,439	8,560	133,611	142,171	191,611
当中間期変動額							
剰余金の配当	-	-	-	-	△16,000	△16,000	△16,000
中間純利益	-	-	-	-	9,228	9,228	9,228
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	-	-	-	-	-	-	-
当中間期変動額合計	-	-	-	-	△6,771	△6,771	△6,771
当中間期末残高	29,000	20,439	20,439	8,560	126,839	135,400	184,839

(単位：百万円)

	評価・換算差額等			純資産 合計
	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	39,242	3,135	42,377	233,988
当中間期変動額				
剰余金の配当	-	-	-	△16,000
中間純利益	-	-	-	9,228
株主資本以外の項目の 当中間期変動額（純額）	1,155	△9,190	△8,034	△8,034
当中間期変動額合計	1,155	△9,190	△8,034	△14,806
当中間期末残高	40,397	△6,055	34,342	219,182

重要な会計方針に関する事項

2024年度中間会計期間末

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券（買入金銭債権のうち有価証券に準じるものを含む）の評価は、売買目的有価証券については時価法（売却原価の算定は移動平均法）、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式（保険業法第2条第12項に規定する子会社及び保険業法施行令第13条の5の2第3項に規定する子法人等のうち子会社を除いたものが発行する株式をいう）については原価法、その他有価証券については、9月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む）については移動平均法による償却原価法（定額法））、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法によっております。その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。なお、外貨建その他有価証券のうち債券に係る換算差額については、外国通貨による時価の変動に係る換算差額を評価差額とし、それ以外の差額については為替差損益として処理しております。
2. デリバティブ取引の評価基準
デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。
3. 有形固定資産の減価償却の方法
有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。
・有形固定資産（リース資産を除く）
定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（2016年3月31日以前に取得した附属設備、構築物を除く）については定額法）を採用しております。
なお、有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。
・リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
4. 無形固定資産の減価償却の方法
ソフトウェアについては、利用可能期間に基づく定額法によっております。
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
外貨建資産・負債は、9月末日の為替相場により円換算しております。
6. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準を準用して、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（「破綻先」という）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（「実質破綻先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を個別貸倒引当金として計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を個別貸倒引当金として計上しております。上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を一般貸倒引当金として計上しております。
債権は、一部重要性の乏しい債権を除き、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。
 - (2) 退職給付引当金
退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当中間期末において発生していると認められる額を計上しております。
退職給付債務並びに退職給付費用の処理方法は次のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法 数理計算上の差異の処理年数 過去勤務費用の処理年数	給付算定式基準 翌年から9年 10年
--	--------------------------

 退職給付に係る未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の会計処理の方法は、連結財務諸表におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。
 - (3) 役員退職慰労引当金
役員退職慰労引当金は、役員等の退職慰労金の支給に備えるため、取締役、監査役及び執行役員に係る退職慰労金の当中間期末支給額を内規に基づき引当計上しております。
 - (4) 価格変動準備金
価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

2024年度中間会計期間末

7. ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に従い、その他有価証券のうち外貨建有価証券の為替変動リスクのヘッジとして時価ヘッジ、及びキャッシュ・フローのヘッジとして繰延ヘッジを適用しております。

ヘッジの有効性の判定は、時価ヘッジについてはヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動を比較する比率分析によっており、また、繰延ヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

また、保険負債の一部に対する金利変動リスクのヘッジとして、「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第26号）に基づく金利スワップによる繰延ヘッジを適用しております。

ヘッジの有効性の判定は、ヘッジ対象となる保険負債とヘッジ手段である金利スワップ取引を一定の残存期間毎にグルーピングのうえヘッジ指定を行っているため、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

8. 消費税の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、当中間期に費用処理しております。

9. 責任準備金の積立方法

当中間期末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、責任準備金を積み立てております。

責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。

① 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）

② 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

保険業法施行規則第69条第5項に基づき、一部の個人保険契約及び個人年金保険契約について、追加責任準備金を3,736百万円積み立てております。

責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。

なお、責任準備金は、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。

10. 保険料の計上基準

保険料は、次のとおり計上しております。

初回保険料は、原則として、収納があり、保険契約上の責任が開始しているものについて、当該収納した金額により計上しております。

また、2回目以降保険料は、収納があったものについて、当該金額により計上しております。

なお、収納した保険料のうち、当中間期末時点において未経過となっている期間に対応する部分については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第2号に基づき、責任準備金に積み立てております。

11. 保険金等支払金及び支払準備金の計上基準

保険金等支払金（再保険料を除く）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。

なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、当中間期末時点において支払義務が発生したもの、又は、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるもの（以下「既発生未報告支払備金」という。）のうち、保険金等の支出として計上していないものについて、支払準備金を積み立てております。

ただし、既発生未報告支払備金については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設又は自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。

（計算方法の概要）

IBNR告示第1条第1項本則に掲げる既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額のうち、2023年度以前の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額について、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。

会計上の見積りに関する事項

2024年度中間会計期間末

1. 責任準備金

- (1) 当中間会計期間の貸借対照表に計上した金額 5,648,279百万円
(2) 会計上の見積りの内容について理解に資するその他の情報

① 算出方法

責任準備金は、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、金融庁に認可を受けた算出方法書により積み立てております。

また、算出方法書の主要な仮定に基づく将来の見積りが、直近の実績と大きく乖離することにより、将来の債務の履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項に基づき、追加の責任準備金を計上しております。

② 主要な仮定

将来発生が予測される債務の算出においては、予定死亡率、予定事業費率、予定利率、予定契約脱退率、予定罹患率等の基礎率や市場金利等を主要な仮定として用いております。基礎率は過去の統計データや法令等によって決定され、その内容は金融庁の認可を受け又は金融庁への届出を行っております。

③ 翌年度の影響

保険数理計算に使用した基礎率は当中間会計期間末時点で合理的であると考えておりますが、発生率等の予期せぬ変動が見込まれ、責任準備金の積立水準が不十分と判断される場合には、責任準備金の必要額に影響を及ぼす可能性があります。また、市場環境の変化等により責任準備金の必要額が増減する可能性があります。

会計上の変更

2024年度中間会計期間末

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日）を当中間会計期間の期首から適用しております。なお、当中間財務諸表に与える影響は軽微であります。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

2024年度中間会計期間末

1. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の合計額は1,753百万円であり、それぞれの内訳は次のとおりであります。
 - (1) 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は78百万円であります。なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。
 - (2) 債権のうち、危険債権額は1,658百万円であります。なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。
 - (3) 債権のうち、三月以上延滞債権はありません。なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。
 - (4) 債権のうち、貸付条件緩和債権額は16百万円であります。なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、(1)、(2)及び(3)に該当しないものであります。
2. 特別勘定の資産の額は、536,106百万円であります。なお、負債の額も同額であります。
3. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

イ. 当期首現在高	296百万円
ロ. 当中間期契約者配当金支払額	12百万円
ハ. 利息による増加等	0百万円
ニ. その他による減少	0百万円
ホ. 当中間期末現在高	283百万円
4. 関係会社の株式は300百万円、出資金は8,874百万円であります。
5. 担保に供されている資産の額は、有価証券3,936百万円であります。また、担保付き債務はありません。
6. 「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」(移管指針第1号)に基づいて原債務者に対する貸付債権として会計処理した参加元本金額のうち、中間貸借対照表計上額は2,138百万円であります。
7. 保険業法施行規則第73条第3項において準用する同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する支払備金(以下「出再支払備金」という。)の金額は13,702百万円、同規則第71条第1項に規定する再保険を付した部分に相当する責任準備金(以下「出再責任準備金」という。)の金額は4,565,303百万円であります。
8. 平成8年大蔵省告示第50号第1条第5項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の当中間期末残高は、1,092百万円であります。
9. 責任準備金対応債券に係る中間貸借対照表計上額は、円建保険契約群に対応するものが3,890,489百万円、その時価は3,550,050百万円であり、ユーロ建保険契約群に対応するものが41,997百万円、その時価は37,217百万円あります。責任準備金対応債券の設定に当たっては、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号)に基づき、一般勘定負債のうち①個人変額保険及び個人変額年金保険を除く円建保険契約群及び②ユーロ建保険契約群をそれぞれ小区分としております。また、同委員会報告における別紙の方法、すなわち将来における一定期間内の保険収支に基づくデュレーションを勘案した方法を採用しております。これらの保険契約群について、当中間期末日現在の保有契約から今後40年以内に生じると予測される保険金・経費等のキャッシュ・アウトフローと保険料の一定割合であるキャッシュ・インフローについて、それらの金利感応度をコントロールすることにより金利変動リスクを管理しております。運用方針につきましては投資委員会にて、責任準備金対応債券のデュレーション及び資金配分を定めており、また、四半期毎の将来収支分析の結果に基づき運用方針の見直しを行っております。上述の方法を用いた将来の①円建保険契約群の保険収支の期間は40年、負債のデュレーションは13.8年、将来の保険料のデュレーションは8.0年、責任準備金対応債券のデュレーションは16.7年となっております。また、②ユーロ建保険契約群の保険収支の期間は40年、負債のデュレーションは14.8年、将来の保険料のデュレーションは5.9年、責任準備金対応債券のデュレーションは16.2年となっております。
10. 責任準備金は、修正共同保険式再保険に付した部分に相当する責任準備金65,599百万円を含んでおります。
11. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(中間損益計算書関係)

2024年度中間会計期間

1. 有価証券売却益の内訳は、国債等債券0百万円、株式等13,631百万円、外国証券483百万円であります。
2. 有価証券売却損の内訳は、国債等債券7,412百万円、株式等49百万円、外国証券3,179百万円であります。
3. 有価証券評価損の内訳は、外国証券335百万円であります。
4. 支払備金繰入額の計算上、足し上げられた出再支払備金戻入額の金額は2,874百万円、責任準備金繰入額の計算上、足し上げられた出再責任準備金戻入額の金額は、109,133百万円であります。
5. 利息及び配当金等収入の内訳は、次のとおりであります。

預貯金利息	100百万円
有価証券利息・配当金	42,469百万円
貸付金利息	10,055百万円
その他利息配当金	20百万円
計	52,645百万円
6. 1株当たりの中間純利益は19,225円49銭であります。
7. 再保険収入には、平成8年大蔵省告示第50号第1条第5項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の増加額1,446百万円を含んでおります。
8. 再保険料には、平成8年大蔵省告示第50号第1条第5項に規定する再保険契約に係る未償却出再手数料の減少額1,900百万円を含んでおります。
9. 再保険収入には、修正共同保険式再保険に係る出再保険事業費受入150百万円を含んでおります。
10. 再保険料には、修正共同保険式再保険に係る再保険料5,186百万円及び再保険会社からの出再責任準備金調整額△3,279百万円を含んでおります。
11. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

7. 経常利益等の明細（基礎利益）

（単位：百万円）

		2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度 第2四半期（上半期）
基礎利益	A	21,912	20,851
キャピタル収益		89,714	36,914
金銭の信託運用益		-	-
売買目的有価証券運用益		-	-
有価証券売却益		3,494	14,115
金融派生商品収益		-	18,510
為替差益		78,524	-
その他キャピタル収益		7,695	4,288
キャピタル費用		78,932	38,925
金銭の信託運用損		-	-
売買目的有価証券運用損		-	-
有価証券売却損		14	10,642
有価証券評価損		3	335
金融派生商品費用		70,213	-
為替差損		-	35,245
その他キャピタル費用		8,700	△7,297
キャピタル損益	B	10,781	△2,011
キャピタル損益含み基礎利益	A+B	32,694	18,840
臨時収益		-	-
再保険収入		-	-
危険準備金戻入額		-	-
個別貸倒引当金戻入額		-	-
その他臨時収益		-	-
臨時費用		5,309	3,568
再保険料		-	-
危険準備金繰入額		3,493	3,532
個別貸倒引当金繰入額		1,816	36
特定海外債権引当勘定繰入額		-	-
貸付金償却		-	-
その他臨時費用		-	-
臨時損益	C	△5,309	△3,568
経常利益	A+B+C	27,384	15,271

その他基礎収益等の内訳

（単位：百万円）

		2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度 第2四半期（上半期）
その他基礎収益		8,700	△7,297
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額		8,700	-
為替に係るヘッジコスト		-	△7,297
その他基礎費用		6,484	4,283
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額		-	4,283
為替に係るヘッジコスト		6,484	-
その他キャピタル収益		7,695	4,288
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額		-	4,283
有価証券償還益のうちキャピタル収益		1,210	4
為替に係るヘッジコスト		6,484	-
その他キャピタル費用		8,700	△7,297
外貨建て保険契約に係る市場為替レート変動の影響額		8,700	-
為替に係るヘッジコスト		-	△7,297

8. 保険業法に基づく債権の状況

(単位：百万円、%)

区分	2023年度末	2024年度 第2四半期（上半期）末
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	85	78
危険債権	1,764	1,658
三月以上延滞債権	-	-
貸付条件緩和債権	18	16
小計 (対合計比)	1,868 (0.3)	1,753 (0.3)
正常債権	611,206	569,092
合計	613,075	570,846

- (注) 1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。
2. 危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権です。(注1に掲げる債権を除く。)
3. 三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上延滞している貸付金です。(注1及び2に掲げる債権を除く。)
4. 貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸付金です。(注1から3に掲げる債権を除く。)
5. 正常債権とは、債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、注1から4までに掲げる債権以外のものに区分される債権です。

9. ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2023年度末	2024年度 第2四半期（上半期）末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	623,996	634,123
資本金等	175,611	184,839
価格変動準備金	67,499	68,195
危険準備金	66,989	70,521
一般貸倒引当金	1,216	1,075
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	58,686	49,971
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△278	△229
全期テルメル式責任準備金相当額超過額	208,760	210,665
負債性資本調達手段等	-	-
全期テルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	-	-
持込資本金等	-	-
控除項目	-	-
その他	45,511	49,082
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$ (B)	166,544	163,884
保険リスク相当額 R_1	12,440	11,761
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	2,067	2,081
予定利率リスク相当額 R_2	26,839	26,967
最低保証リスク相当額 R_7	9,629	10,043
資産運用リスク相当額 R_3	125,891	122,802
経営管理リスク相当額 R_4	3,537	3,473
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	749.3%	773.8%

- (注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条及び平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。
2. 「資本金等」は、貸借対照表の「純資産の部合計」から、社外流出予定額、評価・換算差額等合計額を控除した額を記載しています。
3. 「最低保証リスク相当額」の算出に際しては、標準的方式を使用しています。

10. 特別勘定の状況

(1) 特別勘定資産残高の状況

(単位：百万円)

区分	2023年度末	2024年度 第2四半期（上半期）末	
		件数	金額
個人変額保険及び個人変額年金保険（合同運用分）	513,303	112,715	867,427
個人変額年金保険（合同運用分以外）	212	385,442	2,487,464
団体年金保険	-	498,157	3,354,891
特別勘定計	513,516		536,106

(注) 個人変額保険と一部の個人変額年金保険に係る資産は合同運用を行っております。そのため、「個人変額保険及び個人変額年金保険（合同運用分）」には、合同運用を行っている個人変額保険と個人変額年金保険を合算した数値を記載しております。

(2) 保有契約高

①個人変額保険及び個人変額年金保険（合同運用分）

・個人変額保険

(単位：件、百万円)

区分	2023年度末		2024年度 第2四半期（上半期）末	
	件数	金額	件数	金額
変額保険（有期型）	96,642	735,796	112,715	867,427
変額保険（終身型）	364,601	2,308,348	385,442	2,487,464
合計	461,243	3,044,144	498,157	3,354,891

・個人変額年金保険（合同運用分）

(単位：件、百万円)

区分	2023年度末		2024年度 第2四半期（上半期）末	
	件数	金額	件数	金額
個人変額年金保険	17,407	179,025	32,404	339,680
合計	17,407	179,025	32,404	339,680

②個人変額年金保険（合同運用分以外）

(単位：件、百万円)

区分	2023年度末		2024年度 第2四半期（上半期）末	
	件数	金額	件数	金額
個人変額年金保険	26	213	25	195
合計	26	213	25	195

11. 保険会社及びその子会社等の状況

(1) 主要な業務の状況を示す指標

(単位：百万円)

項目	2023年度 第2四半期（上半期）	2024年度 第2四半期（上半期）
経常収益	895,100	875,055
経常利益	27,387	15,280
親会社株主に帰属する中間純利益	19,021	9,234
中間包括利益	12,310	1,435

項目	2023年度末	2024年度 第2四半期（上半期）末
総資産	6,290,603	6,281,514
ソルベンシー・マージン比率	759.0%	785.0%

(2) 連結範囲及び持分法の適用に関する事項

連結される子会社及び子法人等数 6社

持分法適用非連結子会社及び子法人等数 0社

持分法適用関連法人等数 1社

期中における重要な関係会社の異動について

「中間連結財務諸表の作成方針」をご参照ください。

(3) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	2023年度末 要約連結貸借対照表 (2024年3月31日現在)	2024年度 中間連結会計期間末 (2024年9月30日現在)
		金額	金額
(資産の部)			
現金及び預貯金		97,508	158,877
買入金銭債権		1,755	1,487
有価証券		5,360,562	5,371,235
貸付金		607,746	565,134
有形固定資産		5,994	5,858
無形固定資産		17,267	16,978
再保険貸		60,879	30,877
その他資産		92,819	80,159
繰延税金資産		48,673	53,394
貸倒引当金		△2,604	△2,489
資産の部合計		6,290,603	6,281,514
(負債の部)			
保険契約準備金		5,604,400	5,671,516
支払備金		22,932	22,954
責任準備金		5,581,171	5,648,279
契約者配当準備金		296	283
再保険借		73,333	50,121
その他負債		262,771	224,028
退職給付に係る負債		47,431	47,248
役員退職慰労引当金		1,553	1,354
特別法上の準備金		67,499	68,195
価格変動準備金		67,499	68,195
負債の部合計		6,056,990	6,062,466
(純資産の部)			
資本金		29,000	29,000
資本剰余金		20,439	20,439
利益剰余金		142,169	135,404
株主資本合計		191,609	184,843
その他有価証券評価差額金		39,242	40,397
繰延ヘッジ損益		3,135	△6,055
退職給付に係る調整累計額		△373	△138
その他の包括利益累計額合計		42,003	34,204
純資産の部合計		233,612	219,048
負債及び純資産の部合計		6,290,603	6,281,514

(4) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

・中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	2023年度 中間連結会計期間 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	2024年度 中間連結会計期間 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)
		金額	金額
経常収益		895,100	875,055
保険料等収入		715,180	787,738
資産運用収益		177,688	85,617
（うち利息及び配当金等収入）		(52,853)	(52,645)
（うち有価証券売却益）		(3,494)	(14,115)
（うち特別勘定資産運用益）		(41,549)	(-)
その他経常収益		2,231	1,699
経常費用		867,713	859,775
保険金等支払金		594,278	666,688
（うち保険金）		(46,998)	(53,339)
（うち年金）		(16,526)	(18,060)
（うち給付金）		(7,844)	(8,470)
（うち解約返戻金）		(172,805)	(252,506)
責任準備金等繰入額		125,943	67,129
支払備金繰入額		239	21
責任準備金繰入額		125,704	67,108
契約者配当金積立利息繰入額		0	0
資産運用費用		72,583	48,069
（うち支払利息）		(3)	(4)
（うち有価証券売却損）		(14)	(10,642)
（うち有価証券評価損）		(3)	(335)
（うち特別勘定資産運用損）		(-)	(1,398)
事業費		62,150	64,781
その他経常費用		12,756	13,105
経常利益		27,387	15,280
特別利益		-	0
特別損失		859	2,326
税金等調整前中間純利益		26,528	12,954
法人税及び住民税等		6,776	5,415
法人税等調整額		729	△1,695
法人税等合計		7,506	3,719
中間純利益		19,021	9,234
親会社株主に帰属する中間純利益		19,021	9,234

・中間連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	2023年度 中間連結会計期間 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	2024年度 中間連結会計期間 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)
		金額	金額
中間純利益		19,021	9,234
その他の包括利益		△6,711	△7,798
その他有価証券評価差額金		△9,259	1,155
繰延ヘッジ損益		2,427	△9,190
退職給付に係る調整額		121	235
中間包括利益		12,310	1,435
親会社株主に係る中間包括利益		12,310	1,435

(5) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	2023年度 中間連結会計期間 (2023年4月1日から 2023年9月30日まで)	2024年度 中間連結会計期間 (2024年4月1日から 2024年9月30日まで)
		金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前中間純利益 (△は損失)		26,528	12,954
減価償却費		3,238	3,423
支払備金の増減額 (△は減少)		239	21
責任準備金の増減額 (△は減少)		125,704	67,108
契約者配当準備金積立利息繰入額		0	0
貸倒引当金の増減額 (△は減少)		2,084	△115
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)		203	144
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)		△80	△198
価格変動準備金の増減額 (△は減少)		749	696
利息及び配当金等収入		△57,213	△58,876
有価証券関係損益 (△は益)		29,801	△13,674
支払利息		3	4
為替差損益 (△は益)		△79,587	39,062
有形固定資産関係損益 (△は益)		109	36
その他		△7,129	21,149
小計		44,651	71,735
利息及び配当金等の受取額		47,666	49,740
利息の支払額		△3	△4
契約者配当金等の支払額		△16	△12
その他		172	293
法人税等の支払額		△1,496	△10,812
営業活動によるキャッシュ・フロー		90,973	110,939
投資活動によるキャッシュ・フロー			
買入金銭債権の売却・償還による収入		282	267
有価証券の取得による支出		△262,197	△309,914
有価証券の売却・償還による収入		151,093	261,002
貸付けによる支出		△57,965	△62,724
貸付金の回収による収入		46,832	91,093
その他		△35,005	△13,843
資産運用活動計		△156,959	△34,119
(営業活動及び資産運用活動計)		(△65,985)	(76,819)
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出		△3,696	△3,033
有形固定資産の売却による収入		-	0
投資活動によるキャッシュ・フロー		△160,655	△37,152
財務活動によるキャッシュ・フロー			
配当金の支払額		-	△16,000
その他		△11	△11
財務活動によるキャッシュ・フロー		△11	△16,011
現金及び現金同等物に係る換算差額		2,005	△1,631
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)		△67,688	56,143
現金及び現金同等物期首残高		156,825	103,699
現金及び現金同等物中間連結会計期間末残高		89,137	159,843

- (注) 1. 現金及び現金同等物の範囲は、現金、要求払預金、コールローン及び取得日から満期日又は償還日までの期間が3カ月以内の容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない短期投資です。
2. 重要な非資金取引として有価証券の現物配当(2023年度中間連結会計期間14,800百万円)があります。
3. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(6) 中間連結株主資本等変動計算書

2023年度中間連結会計期間

(2023年4月1日から2023年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	29,000	20,439	124,951	174,391	29,541	6,374	△611	35,305	209,696
当中間期変動額									
剰余金の配当	-	-	△14,800	△14,800	-	-	-	-	△14,800
親会社株主に帰属する 中間純利益	-	-	19,021	19,021	-	-	-	-	19,021
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	-	-	-	-	△9,259	2,427	121	△6,711	△6,711
当中間期変動額合計	-	-	4,221	4,221	△9,259	2,427	121	△6,711	△2,489
当中間期末残高	29,000	20,439	129,173	178,613	20,281	8,802	△490	28,593	207,207

2024年度中間連結会計期間

(2024年4月1日から2024年9月30日まで)

(単位：百万円)

	株主資本				その他の包括利益累計額				純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計	
当期首残高	29,000	20,439	142,169	191,609	39,242	3,135	△373	42,003	233,612
当中間期変動額									
剰余金の配当	-	-	△16,000	△16,000	-	-	-	-	△16,000
親会社株主に帰属する 中間純利益	-	-	9,234	9,234	-	-	-	-	9,234
株主資本以外の項目の 当中間期変動額(純額)	-	-	-	-	1,155	△9,190	235	△7,798	△7,798
当中間期変動額合計	-	-	△6,765	△6,765	1,155	△9,190	235	△7,798	△14,564
当中間期末残高	29,000	20,439	135,404	184,843	40,397	△6,055	△138	34,204	219,048

中間連結財務諸表の作成方針

2024年度中間連結会計期間	
1.	<p>連結の範囲に関する事項</p> <p>連結される子会社及び子法人等数 6社</p> <p>連結される子会社及び子法人等は、プルデンシャル信託株式会社、プルデンシャル・モーゲージ・アセット・ホールディングス・ツアー・ジャパン投資事業有限責任組合、Pine Tree, L.P.、Platinum, L.P.、Platinum II, L.P.及びPlatinum III, L.P.であります。Platinum III, L.P.は、出資持分を取得したことにより、当中間連結会計期間において新たに連結の範囲に含めております。</p>
2.	<p>持分法の適用に関する事項</p> <p>持分法適用の関連法人等数 1社</p> <p>ロックウッド・ベンチャー・ワン・エルエルシー 日本支店</p>
3.	<p>連結される子会社及び子法人等の当中間連結会計期間の末日等に関する事項</p> <p>連結子会社及び子法人等のうち、プルデンシャル・モーゲージ・アセット・ホールディングス・ツアー・ジャパン投資事業有限責任組合、Pine Tree, L.P.、Platinum, L.P.、Platinum II, L.P.及びPlatinum III, L.P.の中間決算日は6月30日であり、当中間連結会計期間の末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用して連結しております。</p>

重要な会計方針に関する事項

2024年度中間連結会計期間末	
1.	<p>有価証券の評価基準及び評価方法</p> <p>有価証券（買入金銭債権のうち有価証券に準じるものを含む）の評価は、売買目的有価証券については時価法（売却原価の算定は移動平均法）、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づく責任準備金対応債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、その他有価証券については、9月末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価の算定は移動平均法、取得差額が金利調整差額と認められる公社債（外国債券を含む）については移動平均法による償却原価法（定額法））、ただし市場価格のない株式等については移動平均法による原価法によっております。</p> <p>その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。なお、外貨建その他有価証券のうち債券に係る換算差額については、外国通貨による時価の変動に係る換算差額を評価差額とし、それ以外の差額については為替差損益として処理しております。</p>
2.	<p>デリバティブ取引の評価基準</p> <p>デリバティブ取引の評価は、時価法によっております。</p>
3.	<p>有形固定資産の減価償却の方法</p> <p>当社の保有する有形固定資産の減価償却の方法は、次の方法によっております。</p> <ul style="list-style-type: none">・有形固定資産（リース資産を除く） 定率法（ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（2016年3月31日以前に取得した附属設備、構築物を除く）については定額法）を採用しております。 なお、有形固定資産のうち取得価額が10万円以上20万円未満のものについては、3年間で均等償却を行っております。・リース資産 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。
4.	<p>無形固定資産の減価償却の方法</p> <p>ソフトウェアについては、利用可能期間に基づく定額法によっております。</p>
5.	<p>外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準</p> <p>外貨建資産・負債は、9月末日の為替相場により円換算しております。</p>

2024年度中間連結会計期間末

6. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

当社の貸倒引当金は、資産の自己査定基準及び償却・引当基準を準用して、次のとおり計上しております。破産、民事再生等、法的形式的な経営破綻の事実が発生している債務者（「破綻先」という）に対する債権及び実質的に経営破綻に陥っている債務者（「実質破綻先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を個別貸倒引当金として計上しております。また、現状、経営破綻の状況にはないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者（「破綻懸念先」という）に対する債権については、債権額から担保の回収可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を個別貸倒引当金として計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率を債権額に乗じた額を一般貸倒引当金として計上しております。

債権は、一部重要性の乏しい債権を除き、資産の自己査定基準に基づき、関連部署が資産査定を実施し、その査定結果に基づいて上記の引当を行っております。

(2) 退職給付に係る負債

退職給付に係る負債は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。

退職給付に係る会計処理の方法は次のとおりです。

退職給付見込額の期間帰属方法	給付算定式基準
数理計算上の差異の処理年数	翌連結会計年度から9年
過去勤務費用の処理年数	10年

(3) 役員退職慰労引当金

当社の役員退職慰労引当金は、役員等の退職慰労金の支給に備えるため、取締役、監査役及び執行役員に係る退職慰労金の当中間連結会計期間末支給額を内規に基づき引当計上しております。

(4) 価格変動準備金

当社の価格変動準備金は、保険業法第115条の規定に基づき算出した額を計上しております。

7. ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法は、「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に従い、その他有価証券のうち外貨建有価証券の為替変動リスクのヘッジとして時価ヘッジ、及びキャッシュ・フローのヘッジとして繰延ヘッジを適用しております。

ヘッジの有効性の判定は、時価ヘッジについてはヘッジ対象とヘッジ手段の時価変動を比較する比率分析によっており、また、繰延ヘッジについては、ヘッジ対象とヘッジ手段に関する重要な条件がほぼ同一となるようなヘッジ指定を行っているため高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

また、保険負債の一部に対する金利変動リスクのヘッジとして、「保険業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別委員会実務指針第26号）に基づく金利スワップによる繰延ヘッジを適用しております。

ヘッジの有効性の判定は、ヘッジ対象となる保険負債とヘッジ手段である金利スワップ取引を一定の残存期間毎にグルーピングのうえヘッジ指定を行っているため、高い有効性があるとみなしており、これをもって有効性の判定に代えております。

8. 消費税の会計処理

当社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、資産に係る控除対象外消費税等のうち、税法に定める繰延消費税等については、その他資産に計上し5年間で均等償却し、繰延消費税等以外のものについては、当中間連結会計期間に費用処理しております。

9. 責任準備金の積立方法

当中間連結会計期間末時点において、保険契約上の責任が開始している契約について、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、保険業法第116条第1項に基づき、責任準備金を積み立てております。

責任準備金のうち保険料積立金については、次の方式により計算しております。

① 標準責任準備金の対象契約については、金融庁長官が定める方式（平成8年大蔵省告示第48号）

② 標準責任準備金の対象とならない契約については、平準純保険料式

保険業法施行規則第69条第5項に基づき、一部の個人保険契約及び個人年金保険契約について、追加責任準備金を3,736百万円積み立てております。

責任準備金のうち危険準備金については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第3号に基づき、保険契約に基づく将来の債務を確実に履行するため、将来発生が見込まれる危険に備えて積み立てております。

なお、責任準備金は、保険料及び責任準備金の算出方法書（保険業法第4条第2項第4号）に記載された方法に従って計算し、保険業法第121条第1項及び保険業法施行規則第80条に基づき、毎決算期において適正に積み立てられているかどうかを、保険計理人が確認しております。

2024年度中間連結会計期間末

10. 保険料の計上基準

保険料は、次のとおり計上しております。

初回保険料は、原則として、収納があり、保険契約上の責任が開始しているものについて、当該収納した金額により計上しております。

また、2回目以降保険料は、収納があったものについて、当該金額により計上しております。

なお、収納した保険料のうち、当中間連結会計期間末時点において未経過となっている期間に対応する部分については、保険業法第116条及び保険業法施行規則第69条第1項第2号に基づき、責任準備金に積み立てております。

11. 保険金等支払金及び支払準備金の計上基準

保険金等支払金（再保険料を除く）は、保険約款に基づく支払事由が発生し、当該約款に基づいて算定された金額を支払った契約について、当該金額により計上しております。

なお、保険業法第117条及び保険業法施行規則第72条に基づき、当中間連結会計期間末時点において支払義務が発生したもの、又は、まだ支払事由の報告を受けていないものの支払事由が既に発生したと認められるもの（以下「既発生未報告支払備金」という。）のうち、保険金等の支出として計上していないものについて、支払準備金を積み立てております。

ただし、当社の既発生未報告支払備金については、新型コロナウイルス感染症と診断され、宿泊施設又は自宅にて医師等の管理下で療養をされた場合（以下「みなし入院」という。）等に入院給付金等を支払う特別取扱を2023年5月8日以降終了したことにより、平成10年大蔵省告示第234号（以下「IBNR告示」という。）第1条第1項本則に基づく計算では適切な水準の額を算出することができないことから、IBNR告示第1条第1項ただし書の規定に基づき、以下の方法により算出した額を計上しております。

（計算方法の概要）

IBNR告示第1条第1項本則に掲げる既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額のうち、2023年度以前の既発生未報告支払備金積立所要額及び保険金等の支払額について、みなし入院に係る額を除外した上で、IBNR告示第1条第1項本則と同様の方法により算出しております。

会計上の見積りに関する事項

2024年度中間連結会計期間末

1. 責任準備金

(1) 当中間連結会計期間に係る連結貸借対照表に計上した金額 5,648,279百万円

(2) 会計上の見積りの内容について理解に資するその他の情報

① 算出方法

責任準備金は、保険契約に基づく将来における債務の履行に備えるため、金融庁に認可を受けた算出方法書により積み立てております。

また、算出方法書の主要な仮定に基づく将来の見積りが、直近の実績と大きく乖離することにより、将来の債務の履行に支障を来すおそれがあると認められる場合には、保険業法施行規則第69条第5項に基づき、追加の責任準備金を計上しております。

② 主要な仮定

将来発生が予測される債務の算出においては、予定死亡率、予定事業費率、予定利率、予定契約脱退率、予定罹患率等の基礎率や市場金利等を主要な仮定として用いております。基礎率は過去の統計データや法令等によって決定され、その内容は金融庁の認可を受け又は金融庁への届出を行っております。

③ 翌連結会計年度の影響

保険数理計算に使用した基礎率は当中間連結会計期間末時点で合理的であると考えておりますが、発生率等の予期せぬ変動が見込まれ、責任準備金の積立水準が不十分と判断される場合には、責任準備金の必要額に影響を及ぼす可能性があります。また、市場環境の変化等により責任準備金の必要額が増減する可能性があります。

会計上の変更

2024年度中間連結会計期間末

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号2022年10月28日）を当中間連結会計期間の期首から適用しております。なお、当中間連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

注記事項

(中間連結貸借対照表関係)

2024年度中間連結会計期間末

1. 主な金融資産及び金融負債に係る中間連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、市場価格のない株式等及び組合出資金等は、次表には含めておりません。また、現金及び預貯金は主に短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

(単位：百万円)

	中間連結貸借 対照表計上額	時価	差額
買入金銭債権	1,487	1,536	48
満期保有目的の債券	1,487	1,536	48
有価証券	5,325,133	5,007,494	△317,638
売買目的有価証券	510,522	510,522	-
満期保有目的の債券	127,619	155,199	27,580
責任準備金対応債券	3,932,487	3,587,268	△345,219
その他有価証券	754,504	754,504	-
貸付金	563,002	562,689	△313
保険約款貸付	290,169	290,169	-
一般貸付	274,965	272,520	△2,445
貸倒引当金	△2,132		
金融派生商品	(70,826)	(70,826)	-
ヘッジ会計が適用されていないもの	(19,392)	(19,392)	-
ヘッジ会計が適用されているもの	(51,434)	(51,434)	-

- ・貸付金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。
 - ・デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。
 - ・有価証券には、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号)第24-3項及び第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託が含まれております。
 - ・非上場株式等の市場価格のない株式等については、有価証券に含めておりません。当該非上場株式等の当中間連結会計期間末における中間連結貸借対照表計上額は5百万円であります。
 - ・組合出資金等については、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号)第24-16項に基づき、有価証券に含めておりません。当該組合出資金等の当中間連結会計期間末における中間連結貸借対照表計上額は46,097百万円であります。
2. 主な金融商品の時価の内訳等に関する事項は、次のとおりであります。
- 金融商品の時価を、時価の算定に用いたインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。
- レベル1の時価：同一の資産又は負債の活発な市場における(無調整の)相場価格により算定した時価
- レベル2の時価：レベル1のインプット以外の直接又は間接的に観察可能なインプットを用いて算定した時価
- レベル3の時価：重要な観察できないインプットを使用して算定した時価
- 時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

2024年度中間連結会計期間末

(1) 時価をもって中間連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
有価証券（売買目的有価証券）	191,084	319,438	-	510,522
公社債	-	88,570	-	88,570
外国証券	172,746	45,121	-	217,868
その他の証券	18,337	185,746	-	204,083
有価証券（その他有価証券）	49,044	600,680	66,821	716,546
公社債	-	115,024	10,866	125,890
株式	32,219	-	-	32,219
外国証券	284	485,656	55,954	541,896
その他の証券	16,540	-	-	16,540
デリバティブ取引	-	5,709	-	5,709
資産計	240,128	925,828	66,821	1,232,778
デリバティブ取引	-	76,536	-	76,536
負債計	-	76,536	-	76,536

・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号）第24-3項及び第24-9項の基準価額を時価とみなす取扱いを適用した投資信託については、上記表には含めておりません。中間連結貸借対照表における当該投資信託等の金額は37,957百万円であります。

(2) 時価をもって中間連結貸借対照表計上額としない金融資産及び金融負債

(単位：百万円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
買入金銭債権（満期保有目的の債券）	-	1,536	-	1,536
有価証券（満期保有目的の債券）	-	155,199	-	155,199
公社債	-	2,731	-	2,731
外国証券	-	152,467	-	152,467
有価証券（責任準備金対応債券）	-	3,453,396	133,871	3,587,268
公社債	-	3,412,749	-	3,412,749
外国証券	-	40,647	133,871	174,518
貸付金	-	12,990	549,698	562,689
保険約款貸付	-	-	290,169	290,169
一般貸付	-	12,990	259,529	272,520
資産計	-	3,623,123	683,569	4,306,693

2024年度中間連結会計期間末

(3) 時価の算定に用いた評価技法及びインプットの説明

ア. 有価証券（預貯金・買入金銭債権のうち「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号）に基づく有価証券として取扱うもの及び金銭の信託において信託財産として運用している有価証券を含む）
有価証券については、活発な市場における無調整の相場価格を利用できるものはレベル1の時価に分類しております。主に上場株式、上場投資信託がこれに含まれます。公表された相場価格を用いていたとしても市場が活発でない場合にはレベル2の時価に分類しております。主に国債、地方債、社債、外国証券がこれに含まれます。相場価格が入手できない場合には、将来キャッシュ・フローの割引現在価値法などの評価技法を用いて時価を算定しております。評価にあたっては観察可能なインプットを最大限利用しており、インプットには、国債利回り、スワップ金利、期限前返済率、信用スプレッド、倒産確率、倒産時の損失率等が含まれます。算定にあたり重要な観察できないインプットを用いている場合には、レベル3の時価に分類しております。相場価格が存在しない投資信託について、解約又は買戻請求に関して市場参加者からリスクの対価を求められるほどの重要な制限がない場合には取引金融機関から入手した基準価額を時価とし、レベル2の時価に分類しております。

イ. 貸付金

保険約款貸付は、当該貸付を解約返戻金の範囲内に限るなどの特性により返済期限を設けておらず、返済見込期間及び金利条件等から、時価は帳簿価額と近似しているものと想定されるため、帳簿価額を時価としております。
一般貸付のうち、法人向貸付については、将来キャッシュ・フローを割り引いて現在価値を計算し時価としております。
個人向の住宅ローン等については、保証会社別の区分に基づき、繰上返済率を織り込んだ見積将来キャッシュ・フローを割り引いて現在価値を計算し時価としております。割引率はスワップレートや国債利回り等、適切な指標に信用スプレッド等を上乗せして設定しております。貸倒懸念債権については資産査定において、担保及び保証による回収見込額等に基づいて個別貸倒引当金の計算が行われており、債権額から個別貸倒引当金を差し引いた金額を時価としております。
時価に対して観察できないインプットによる影響額が重要な場合はレベル3の時価、そうでない場合はレベル2の時価に分類しております。

ウ. デリバティブ取引

デリバティブ取引は、金利関連取引（金利スワップ）、通貨関連取引（為替予約、通貨スワップ）等であり、店頭取引のデリバティブ取引は割引現在価値法を利用して時価を算定しております。評価技法で用いている主なインプットは、金利や為替レート等であり、重要な観察できないインプットを用いていないためレベル2の時価に分類しております。

(4) 時価をもって中間連結貸借対照表計上額とする金融資産及び金融負債のうちレベル3の時価に関する情報

ア. 重要な観察できないインプットに関する定量的情報

区分	評価技法	重要な観察できないインプット	インプットの範囲	インプットの加重平均
有価証券（その他有価証券）				
外国証券	割引現在価値法	割引率	0.11%~0.25%	0.15%

なお、上記には第三者から入手した価格を調整せずにレベル3に分類される時価として使用している有価証券は含めておりません。

イ. 期首残高から中間連結会計期間末残高への調整表、当中間連結会計期間の損益に認識した評価損益

(単位：百万円)

	有価証券（その他有価証券）		合計
	公社債	外国証券	
期首残高	10,920	54,800	65,721
当中間連結会計期間の損益に計上（*1）	-	△529	△529
その他の包括利益に計上（*2）	△54	110	56
購入、売却、発行、決済による変動額	-	447	447
レベル3の時価への振替（*3）	-	1,126	1,126
レベル3の時価からの振替	-	-	-
中間連結会計期間末残高	10,866	55,954	66,821
当中間連結会計期間の損益に計上した額のうち中間連結貸借対照表日において保有する金融資産及び金融負債の評価損益（*1）	-	△537	△537

(*1) 中間連結損益計算書の「資産運用収益」及び「資産運用費用」に含まれております。

(*2) 中間連結包括利益計算書の「その他の包括利益」の「その他有価証券評価差額金」に含まれております。

(*3) レベル2の時価からレベル3の時価への振替であり、市場の活動の減少等により観察可能な市場データが不足したことによるもの、もしくは観察不能となったものであります。当該振替は当中間連結会計期間の期首に行っております。

2024年度中間連結会計期間末

ウ. 時価の評価プロセスの説明

当社は時価の算定に関する方針、手続及び時価評価モデルの使用に係る手続を定めております。これらの方針及び手続に基づき、時価の算定に用いられた評価技法及びインプットの妥当性並びに時価のレベルの分類の適切性を検証しております。また、第三者から入手した相場価格を利用する場合においても、利用されている評価技法及びインプットの確認や類似の金融商品の時価との比較等の適切な方法により価格の妥当性を検証しております。

エ. 重要な観察できないインプットを変化させた場合の時価に対する影響に関する説明

外国証券の時価の算定で用いている重要な観察できないインプットは、割引率であります。スワップレートや国債利回り等に、主に信用リスク、流動性リスクのスプレッドを上乗せした、市場において要求されるリターンであります。割引率の著しい上昇（低下）は、金融資産の時価の著しい下落（上昇）を生じさせることとなります。

3. 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権並びに貸付条件緩和債権の合計額は1,753百万円であり、それぞれの内訳は次のとおりであります。

(1) 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は78百万円であります。なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始又は再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権であります。

(2) 債権のうち、危険債権額は1,658百万円であります。なお、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権に該当しない債権であります。

(3) 債権のうち、三月以上延滞債権はありません。なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として三月以上延滞している貸付金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権に該当しないものであります。

(4) 債権のうち、貸付条件緩和債権額は16百万円であります。なお、貸付条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他債務者に有利となる取決めを行った貸付金で、(1)、(2)及び(3)に該当しないものであります。

4. 特別勘定の資産の額は、536,106百万円であります。なお、負債の額も同額であります。

5. 契約者配当準備金の異動状況は次のとおりであります。

イ. 当連結会計年度期首現在高	296百万円
ロ. 当中間連結会計期間契約者配当金支払額	12百万円
ハ. 利息による増加等	0百万円
ニ. その他による減少	0百万円
ホ. 当中間連結会計期間末現在高	283百万円

6. 関係会社（連結される子会社及び子法人等を除く）への出資金は8,874百万円であります。

7. 担保に供されている資産の額は、有価証券3,936百万円あります。また、担保付き債務はありません。

8. 「ローン・パーティシペーションの会計処理及び表示」（移管指針第1号）に基づいて原債務者に対する貸付債権として会計処理した参加元本金額のうち、中間連結貸借対照表計上額は2,138百万円あります。

9. 1株当たりの純資産額は456,350円59銭であります。

2024年度中間連結会計期間末

10. 当社の責任準備金対応債券に係る中間連結貸借対照表計上額は、円建保険契約群に対応するものが3,890,489百万円、その時価は3,550,050百万円であり、ユーロ建保険契約群に対応するものが41,997百万円、その時価は37,217百万円であります。
- 責任準備金対応債券の設定に当たっては、「保険業における「責任準備金対応債券」に関する当面の会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第21号）に基づき、一般勘定負債のうち①個人変額保険及び個人変額年金保険を除く円建保険契約群及び②ユーロ建保険契約群をそれぞれ小区分としております。また、同委員会報告における別紙の方法、すなわち将来における一定期間内の保険収支に基づくデュレーションを勘案した方法を採用しております。これらの保険契約群について、当中間連結会計期間末日現在の保有契約から今後40年以内に生じると予測される保険金・経費等のキャッシュ・アウトフローと保険料の一定割合であるキャッシュ・インフローについて、それらの金利感応度をコントロールすることにより金利変動リスクを管理しております。
- 運用方針につきましては投資委員会にて、責任準備金対応債券のデュレーション及び資金配分を定めており、また、四半期毎の将来収支分析の結果に基づき運用方針の見直しを行っております。
- 上述の方法を用いた将来の①円建保険契約群の保険収支の期間は40年、負債のデュレーションは13.8年、将来の保険料のデュレーションは8.0年、責任準備金対応債券のデュレーションは16.7年となっております。また、②ユーロ建保険契約群の保険収支の期間は40年、負債のデュレーションは14.8年、将来の保険料のデュレーションは5.9年、責任準備金対応債券のデュレーションは16.2年となっております。
11. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(中間連結損益計算書関係)

2024年度中間連結会計期間

1. 1株当たりの中間純利益は19,238円51銭であります。
2. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

2024年度中間連結会計期間

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

(単位：千株)

	当連結会計年度 期首株式数	当中間連結 会計期間 増加株式数	当中間連結 会計期間 減少株式数	当中間連結 会計期間末 株式数
発行済株式				
普通株式	480	-	-	480
合計	480	-	-	480

2. 配当支払額

2024年6月24日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

金銭による配当支払額

- ・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	16,000百万円
(ロ) 1株当たり配当額	33,333円
(ハ) 基準日	2024年3月31日
(ニ) 効力発生日	2024年6月24日

3. 記載金額は百万円未満を切捨てて表示しております。

(7) 連結ソルベンシー・マージン比率

(単位：百万円)

項目	2023年度末	2024年度 第2四半期（上半期）末
ソルベンシー・マージン総額 (A)	623,475	633,936
資本金等	175,609	184,843
価格変動準備金	67,499	68,195
危険準備金	66,989	70,521
異常危険準備金	-	-
一般貸倒引当金	1,216	1,075
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	58,686	49,971
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	△278	△229
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	△518	△191
全期チルメル式責任準備金相当額超過額	208,760	210,665
負債性資本調達手段等	-	-
全期チルメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	-	-
控除項目	-	-
その他	45,511	49,082
リスクの合計額 $\sqrt{(R_1^2 + R_5^2 + R_6 + R_9)^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4 + R_8$ (B)	164,287	161,509
保険リスク相当額 R_1	12,440	11,761
一般保険リスク相当額 R_5	-	-
巨大災害リスク相当額 R_6	-	-
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	2,067	2,081
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R_9	-	-
予定利率リスク相当額 R_2	26,839	26,967
最低保証リスク相当額 R_7	9,629	10,043
資産運用リスク相当額 R_3	123,669	120,466
経営管理リスク相当額 R_4	3,492	3,426
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	759.0%	785.0%

(注) 1. 上記は、保険業法施行規則第86条の2、第88条及び平成23年金融庁告示第23号の規定に基づいて算出しています。

2. 「最低保証リスク相当額」の算出に際しては、標準的方式を使用しています。

(8) セグメント情報

当社及び連結される子会社及び子法人等は、生命保険事業以外に投資事業、信託業を営んでおりますが、当該事業の全セグメントに占める割合が僅少であるため、セグメント情報及び関連情報の記載を省略しております。